

令和 8 年度以降の「実践」の見直し

令和 8 年 3 月 1 6 日

現行の「実践」の流れ

1 取組目標の設定

受講生が、外国人支援コーディネーターとして備えるべき4つの能力（※）に対する「取組目標」を設定する。

2 課題の設定・通知

受講生から提出された4つの「取組目標」に対し、事務局がそれぞれの「取組目標」に応じた「課題」を設定し、受講生に通知する。

3 取組状況の中間報告の提出

受講生は、「実践」開始から1か月経過後に4つの課題に対する中間報告を事務局に提出する。

4 課題レポートの提出

受講生は、「実践」期間終了前に4つの課題に対する課題レポートを事務局に提出する。

※ 4つの能力

- ①外国人の在留状況を正確に把握する能力
- ②異なる文化や価値観を理解する能力
- ③外国人の複雑・複合的な相談内容に対して適切な解決まで導く能力
- ④外国人を適切な支援へ円滑につなげる能力

1. 「取組目標の設定」に関する見直し（案）

現状と課題

- 受講生が、外国人支援コーディネーターとして備えるべき4つの能力に対応する取組目標を設定し、事務局は個々人の目標に応じて課題を設定し、受講生に通知しているところ、目標が4つの能力に合致しているかを確認し、その上で、目標に応じた課題を個別に設定することになるため、この工程に全体で3週間ほどの時間を要する。
- また、受講生によって、設定した目標の難易度にバラツキが生じており、研修内容の均等化の観点からも、こうしたばらつきは望ましくない。
- 受講生アンケート結果において、「外国人支援コーディネーターに求められる能力の範囲が広いため、「実践」における取組目標の設定に迷った。」旨の意見があった。

改善案

現行のプロセスを廃止し、「課題」を選択する方式にする

- 事務局において、4つの能力に対応する課題をそれぞれ3～5個作成（別紙1 「実践」課題リスト（案）参照）し、その中から受講生が選択する（受講生が課題を自由に設定することも可）。
- 設定した課題リストは、必要に応じて講師からの意見を基に見直しを図る。

👉期待される効果

課題の明確化・質の均等化、受講生及び事務局の負担軽減のほか、**課題設定に必要だった3週間の期間が短縮され、他の研修期間に充てることができる。**

2. 様式の見直し（案）

現状と課題

- 「取組目標の設定・課題の通知」、「取組状況の中間報告」及び「課題レポート」の各種様式をWord形式で提出を求めている。
- 「実践」では、原則として課題レポートの提出が必要となるが、「課題」に対応した実践場面がないなど、課題レポートの作成に必要な実例が得られなかった場合には、「代替レポート」（「課題レポート」様式の中に報告事項が記載されている）を提出することとされているが、令和7年度の養成研修においては、相談実例がない場合でも受講生が自ら学習・分析することを課題内容とするなど、その設定を工夫したことから、代替レポートの必要性がなくなった（提出実績もゼロ）。

改善案

- 現行のWord形式の様式を見直し、上記の3様式を統合した別紙2の外国人支援コーディネーター養成研修「実践」取組シート（案）（Excel形式）を導入する。
- また、必要性のない「代替レポート」は廃止する。

👉 期待される効果

各種報告様式の一元化・スリム化により文書作成及び確認が容易になる。

3. 講師からのフィードバック（案）

現状と課題

- 受講生アンケート結果において、以下のとおり意見があった。
 - ・ 「実践」の中間報告と課題レポートを提出した後のフィードバックが全くないので、レポートの内容が適切であったのか不安だった。
 - ・ 「実践」に対する講師からのフィードバックやモニタリング、可能であればスーパービジョンが必要だと思う。

改善案

- 個々人の各課題レポートに対して、フィードバックを行うことは困難であるが、以下で対応する。
 - ・ 「実践」後に実施される「養成課程②」のグループ討議で、各班が代表的な相談現場の課題を取り上げて議論し、それに対して講師がコメントを行う。
 - ・ 「実践」期間中に実施する任意参加のオンライン交流会で、中間報告及び課題レポートの書き方について講師等が全体向けのレクチャーを行う。
 - ・ なお、中間報告及び課題レポートに求められる文字数が多いとの意見もあったが、分量の増減は行わないこととする。
 - ※ 中間報告 各課題の項目につき500文字程度（合計2,000文字程度）
 - 課題レポート 各課題の項目につき1,000文字程度を記載する（合計4,000文字程度）

期待される効果

「実践」の方向性が示され、研修効果の向上が図られる。

「実践」課題リスト（案）

(1) 外国人の在留状況を正確に把握する能力に関する課題

- ① 養成研修テキストの在留資格一覧表等を活用して各在留資格の特徴を把握するほか、法律や制度の改正情報を入管庁のウェブサイトで定期的に確認することで、在留手続に関する正確な案内が行えるようにする。
- ② 在留資格の把握のほか、住民票やその他の資料から、家族構成、使用言語、生活状況などを読み取れるよう、状況把握の質を高める。
- ③ 地域・所属機関における在留外国人の国籍構成・在留資格及び過去 10 年間の動向を調査・分析し、その結果から地域特性に基づく課題を可視化した上で、関係者への情報提供や予防的支援策の検討・実施につなげる。
- ④ （自由記載）

(2) 異なる文化や価値観を理解する能力に関する課題

- ① 諸外国の文化や制度、価値観について調査するほか、地域・所属機関における在留外国人が、日本の文化や社会制度の違いによって日常生活で抱える悩みや困難は何か、相談対応やヒアリング、インターネットや文献を通じて把握・分析し、得られた知見を整理して相談支援に生かす。
- ② 諸外国の文化や制度、価値観について調査するほか、相談者の文化的背景や価値観の違いにより生じやすい誤解やコミュニケーションのズレを把握するため、これまでの相談事例を分析し、文化差に配慮した説明方法や対応ポイントを整理して相談支援に生かす。
- ③ 諸外国の文化や制度、価値観について調査するほか、その成果を踏まえて地域・所属機関において地域住民等を対象とした異文化理解講座や講演・イベント等を企画・開催することで、地域全体における在留外国人への理解と受容の促進につなげる。
- ④ （自由記載）

(3) 外国人の複雑・複合的な相談内容に対して適切な解決まで導く能力に関する課題

- ① 相談内容に関連する制度（在留資格・医療・労働・教育・福祉・生活・法律など）の基礎的な情報を収集・整理した上で、外国人相談者の主訴だけでなく、その背景にある状況や要因も丁寧に聞き取り、適切な支援につながる判断と対応ができるようにする。
- ② 開かれた質問・明確化・要約などの面接技法を用いて相談者の語る問題の背景や理由を丁寧に掘り下げるとともに、エコマップ・ジェノグラム・タイムラインなどの評価ツールを活用して状況を可視化し、最適な支援プランを作成・実行できるようにする。
- ③ バイステックの 7 原則やロジャーズの 3 原則に基づいた面接姿勢を徹底し、やさしい日本語や視覚資料、ジェスチャーを用いて分かりやすく説明するとともに、相談者の怒り・不安・混乱に寄り添い、安心感と肯定感を与える対応スキルを習得する。
- ④ （自由記載）

(4) 外国人を適切な支援へ円滑につなげる能力に関する課題

- ① 地域における行政・教育機関・医療機関・労働相談・法律相談などの連携先を整理し、実際の相談事例を通じて多機関との連携を実践する。
- ② フォーマル・インフォーマル双方の社会資源を把握し、最新情報を収集することで、相談者に最適な支援先を的確に選択できるようにする。
- ③ 既存の連携先との連携強化を図るために、定期的な情報交換等の実施や担当者間の連絡体制を見直すなどして、相談者が必要な支援につながるまでの調整を円滑に進められるようにする。
- ④ (自由記載)

※④は受講生が自由に記載できる項目であり、事務局が認めた内容を課題にすることができる。

外国人支援コーディネーター養成研修「実践」取組シート(案)

受講生番号	SC	受講生氏名	
所属機関		勤務地(都道府県)	
業務内容		担当講師	

外国人支援コーディネーターに求められる4つの能力
 ①外国人の在留状況を正確に把握する能力
 ②異なる文化や価値観を理解する能力
 ③外国人の複雑・複合的な相談内容に対して適切な解決まで導く能力
 ④外国人を適切な支援へ円滑につなげる能力

項目	課題		取組状況の中間報告	課題レポート
	課題の番号	左側の列にある黄色でハイライトされた項目から番号を選択し、課題を設定してください(自由記載可)。	項目ごとに合計500文字程度記載してください。	項目ごとに合計1,000文字程度記載してください。
1			【課題の実践場面での自身の取組、学んだこと】 【今後の目標】	【取り組めたこと】 【取り組めなかったこと及びその理由】 【今回の実践を通じて学んだこと】 【今回の実践を踏まえた今後の目標】
2			【課題の実践場面での自身の取組、学んだこと】 【今後の目標】	【取り組めたこと】 【取り組めなかったこと及びその理由】 【今回の実践を通じて学んだこと】 【今回の実践を踏まえた今後の目標】

3		<p>【課題の実践場面での自身の取組、学んだこと】</p> <p>【今後の目標】</p>	<p>【取り組めたこと】</p> <p>【取り組めなかったこと及びその理由】</p> <p>【今回の実践を通じて学んだこと】</p> <p>【今回の実践を踏まえた今後の目標】</p>
4		<p>【課題の実践場面での自身の取組、学んだこと】</p> <p>【今後の目標】</p>	<p>【取り組めたこと】</p> <p>【取り組めなかったこと及びその理由】</p> <p>【今回の実践を通じて学んだこと】</p> <p>【今回の実践を踏まえた今後の目標】</p>